

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とのかかわることができる人を育てます。また多文化共生社会で活躍できる人を育てます。

(1) 多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と生徒支援により「4つの力」を育みます。

① 学び続ける力：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。

② 他者と関わり生きていく力：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。

③ 課題を乗り越える力：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。

④ 自分の将来を考える力：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。

(2) 地域に根差した学校として多文化共生社会において自己実現できる力を育みます。

2 中期的目標

- 1 わかる授業づくり ～「学び続ける力」を育む
- (1) わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。
- (2) 安心して授業が受けることができるよう授業環境を整え、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。
- (3) 定期的に実施する授業見学・研究協議を通して、生徒が主体的に思考を続ける授業をめざす。
- ※学校教育自己診断における生徒の学習満足度 90%以上を維持 (R5：84.8% R6：86.5% R7：95.4%)
- 2 安全安心の学校づくりと生徒のエンパワーメント ～「他者と関わり生きていく力」「課題を乗り越える力」を育む
- (4) すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門職との連携を深め、きめ細かな生徒支援を行うとともに、教育相談体制を強化する。
- (5) 総合的な探究の時間等において、社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニング (SST) を活用して、必要なコミュニケーション能力や課題を一つひとつ解決する力を高める。
- (6) 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。
- (7) ボランティア活動、地域連携などの取組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。
- ※学校教育自己診断における生徒の教育相談満足度 80%以上を維持 (R5：69.0% R6：85.1% R7：84.8%)
- 3 進路指導 ～「自分の将来を考える力」を育む
- (8) 職場見学やインターンシップを通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。
- (9) 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取組みをすすめる。
- ※学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度 90%以上を維持 (R5：91.0% R6：91.9% R7：93.9%)
- 4 多文化共生社会で活躍できる力を育む
- (10) 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜実施校として、日本語指導が必要な生徒に対する日本語運用能力の向上や母語指導の充実、進路実現に向けての支援体制を充実させる。
- (11) 日本語指導における拠点校 (R10～) としてのミッションを担うための指導内容の充実を図り多文化共生の学校づくりをすすめる。
- ※学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」 90%以上を維持 (R5：91.1% R6：93.6% R7：95.7%)
- 5 地域に根ざした信頼される学校づくり
- (12) 家庭や地域との連携強化により、多様な生徒を支える地域に根ざした多文化共生をすすめ、すべての生徒一人ひとりを大切に育てていく。
- (13) 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取組みをすすめる。
- ※年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員ゼロを維持する。(R5：0人 R6：0人 R7：0人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 わかちやすい授業しへんく「学び続ける力」の育成	(1) わかる喜びやできる楽しさを実感できる学習支援 (2) 安心して学べる学習環境の整備 (3) 教員の授業力向上	(1) - 授業のユニバーサルデザインを意識した授業づくりや、ICT 機器を積極的に活用したわかりやすい授業づくりを推進する。 - 生徒が主体的に思考を続ける授業を追求する。 - 授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。 (2) - 安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切にした授業環境を整える。 (3) - やさしい日本語を用いた授業実践や1人1 端末末を活用した授業実践など、定期的に授業に関する研究協議を行うことで、生徒が主体的に思考を続ける授業の追求をすすめる。	(1) 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」90%以上を維持。[95.4%] 「授業などで視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」90%以上を維持。[93.9%] 「教え方に工夫をしている先生が多い」90%以上を維持。[93.6%] 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」90%以上を維持。[94.7%] 「学習の評価について納得できる」90%以上を維持。[97.7%] (2) - 生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」90%以上を維持。[90.5%] (3) - 教員による授業見学・研究協議を年8回実施する。(新規)	
2 安全安心の学校づくりと生徒のエンパワーメント く「他と関わりながら課題を乗り越える力」の育成	(1) SC、SSW 等の専門職との連携による、多様な生徒への支援の充実と教育相談体制の充実 (2) 探究等の教育活動における SST の活用 (3) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーの習得と SST の活用 (4) お互いの個性の尊重 (5) 多様な生徒たちの活躍の場づくり・居場所づくり	(1) - 高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、外部人材との協力により教育相談体制を強化する。 - 生徒の状況をさまざまな角度からアセスメントし、丁寧な指導と温かみのある声かけにより、問題事象の早期発見、早期対応を心がける。 - 教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CC と連携して生徒支援を行う。 (2) - 総合的な探究の時間において計画的に SST を実施する。 (3) - すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会を作りながら、SST をすすめる。 - 総合的な探究の時間、LHR、SST と群総合の内容がより効果的になるよう計画していく。 (4) - 自他を大切にすることを育むために、「3つのリスペクト(3R)」を大切にすることを継続して行う。 - 人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。 - 多文化共生やネットリテラシーに関して LHR や行事等で学ぶ機会や講演会を企画する。 (5) 生徒会活動を通じリーダーを育成し、生徒が主役の学校行事の企画をすすめる。	(1) ケース会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。情報共有が組織的に効果的に行われたかを検証する。 - 生徒向け学校教育自己診断の教育相談満足度 80%以上を維持する。[84.8%] - 生徒向け学校教育自己診断の入学満足度 85%以上を維持。[89.8%] - 生徒向け学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」90%以上を維持。[96.2%] - 教員向け学校教育自己診断「教育相談体制が整備されている」85%以上。[81.0%] (2) - 総合的な探究の時間において教育産業と連携したプログラム、教科で作成した総合 SST と群総合が実施できたか。[総実施回数25回]。 (3) - 生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持。[96.2%] (4) - 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持。[98.1%] - 学校教育自己診断において「多文化共生について学ぶ機会がある」の項目設定。90%以上を維持。[95.7%] (5) - 生徒向け学校教育自己診断「行事は楽しく行えるよう工夫されている」90%以上を維持。[95.8%]	
3 進路指導 く「自分の将来を考える力」の育成	(1) 将来を見すえた進路指導	(1) - 個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を引き出し、それぞれの生活スタイルやペースに合わせた受講登録を通して将来について考える力をつける支援をする。 - 通信併修や技能審査・高認など外部単位の案内を丁寧に行う。 - ガイダンス、講演、リモート見学会等、生徒一人ひとりが具体的な進路を見据えることができる取組みを計画する。 - 外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取組みをすすめる。	(1) - 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%以上を維持。[91.3%] - 生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」90%以上を維持。[93.9%] - 外部講師や地域人材などを活用した授業や講演会などを5回以上実施する。[6回]	

府立大阪わかば高等学校

4 多文化共生社会で 活躍できる力の育成	(1) 日本語指導が必要な生徒に対する支援体制の構築 (2) 多文化共生の学校づくり	(1) 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校として、日本語指導が必要な生徒に対する母語指導の充実、進路実現に向けての支援体制を整える。 (2) 日本語指導における拠点校（R10～）としてのミッションを担うための指導内容の充実を図り多文化共生の学校づくりをすすめる。	(1) - 卒業生全体の進路決定率を80%以上とする。[77.1%] - 併せて、日本語指導が必要な生徒については、進路決定率95%以上を維持する。[97.0%] (2) - 学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」90%以上を維持 [95.7%]	
5 地域に根ざした 信頼される学校づくり	(1) 地域との連携と受験生・中学校・地域向け広報の充実 (2) ボランティア活動、地域連携などの取組。 (3) 学校における働き方改革の取組み	(1) - HP 等で入試関係や行事、学校生活について適宜発信する。 - 外部組織と連携し wakaba カフェ等の居場所づくりを進める。 (2) - 校内外美化活動はじめ地域におけるボランティア活動の企画を行う。 - 生野区や NPO と連携した取組みを継続して行う。 - 生野支援学校との併設（R10～）に向け、交流を充実させるとともに、議論を加速化させる。 (3) - 教職員の時間外労働時間数の把握し、業務の効率化をすすめ時間外労働時間の低減を図る。 - 働きやすい職場環境を維持し協働性の高い教職員集団づくりをすすめる。	(1) - 保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」85%以上をめざす[87.8%] - wakabaカフェを15回以上開催する[17回] (2) - 地域と連携した取組みを2回以上実施[1回] - 生野支援学校との交流行事を3回以上実施（新規） (3) - 教職員の時間外労働時間数を20時間未満に維持[17.5H] - 年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員ゼロを維持[0人] - ストレスチェック集団分析結果で「総合健康リスク」100以下を維持[75]	